

令和4年度 大規模事業の実施状況の確認【事前質問】

・クリーンセンター更新整備・運転管理事業

No.	意見等	回答																				
1	草津市民自身によるごみ搬入は、回収の手間が省ける点では、評価に値する面もあると考えられる。そこで、どの程度の市民が自ら搬入を行っているかのデータがあると良い。	令和3年度のごみ搬入量は26,036トンあり、そのうち市民の方が直接クリーンセンターに持ち込まれた量は、1,183トンあります。																				
2	大震災、大洪水などの自然災害時には、大量のがれきが発生することが予想される。それらに対して、どのような対応が想定されているか、説明をお願いしたい。	大規模な災害が発生した場合、施設の処理能力を超える廃棄物の発生が想定されます。有事の際は、草津市災害廃棄物処理計画に基づき、市内に一次置場、二次置場を設置し、処理方法別に保管し、優先順位を付けて処理を行います。あわせて県や他市町村にも応援を要請し、処理を進めます。																				
3	「評価」欄記載の「受益者負担の割合」の問題は、整備費用だけでなく廃棄物処理費用のどの程度を受益者が負担すべきか、という問題を含むと思われるが、「説明」欄によれば、整備費用における国の補助金活用の点を指摘することとまattering、評価する上で考慮すべき視点が欠けているように思われる。	ごみ処理費用の受益者負担については、ごみ袋の価格にごみ処理費用を含めて算出しており、排出量に応じた費用負担を求めています。なお、ごみの減量および資源化の促進のために年間一定枚数まで無料とし、それを超過する場合は有料としております。																				
4	見学时、最新式の設備を導入したとの説明を受けたが、整備費用を含めその選択の適否自体は評価の対象とならないとしても、その上でコスト削減の余地がなかったか、について、「国からの補助金」を活用している、ということだけでは、評価の理由として不足しているように思われる。	センターの整備については、民間業者から提案を頂く総合評価方式を採用しております。総合評価技術審査会にて、学識経験者による整備内容、コスト面などを総合的に評価し、最も優良な内容での整備となっております。																				
5	今後、定期的なメンテナンス、大規模修繕等にどの程度の費用が見込まれるのか。	竣工後、15年間でおよそ以下の金額を見込んでいます。 2,286,000千円																				
6	効率性について、他の手法に比べて効率のよい事業手法であることを比較できる根拠資料を要望する。	センターの整備に際し、主要な施設である焼却炉について、外部の専門家も含めた委員会で検討し、安全面、コスト面などから効率的な「ストーカ燃焼方式」を選定しました。																				
7	効率性について、受益者一人あたりのコストが適正であることを示す資料を要望する。 (たとえば、類似団体における受益者一人あたりのコストの比較など)	受益者である市民一人あたりの処理経費は、草津市では8,700円と安価な内容となっており、近隣の守山市13,300円、栗東市15,100円となっております。(令和元年度実績)																				
8	効率性について、受益者負担の割合に問題はないといえる根拠資料を要望する。	ごみを排出しない人はおらず、市民全員が受益者であると考えます。整備に市税を充当し、市民全員が負担することが妥当と考えます。なお、国の補助金を利用し、受益者の負担軽減を図っています。																				
9	成果について、受益者の評価を示す根拠資料を要望する。	新センター竣工後、毎年38,000トン以上の処理を滞ることなく行っている事など、安全かつ安定した運転が実施できており、「令和3年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査」の満足度では、75.1%の方が不満は無いとの回答を得ています。																				
10	成果について、効果をどのように測定したのかについての根拠資料を要望する。	新センター竣工後、毎年38,000トン以上の処理を滞ることなく行っている事など、安全かつ安定した運転が実施できており、事業の目的に見合った十分な効果が得られていると判断します。																				
11	ゴミ発電量とゴミの受入量の経年推移を要望する。	新センター運用開始後のデータは、以下の通りです。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ごみ発電量</th> <th>焼却ごみ量</th> <th>ごみの受入れ全体量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30年度</td> <td>20,378MWh</td> <td>34,494トン</td> <td>38,628トン</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>20,466MWh</td> <td>34,504トン</td> <td>39,128トン</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>20,700MWh</td> <td>34,384トン</td> <td>38,744トン</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>20,315MWh</td> <td>34,002トン</td> <td>38,620トン</td> </tr> </tbody> </table>		ごみ発電量	焼却ごみ量	ごみの受入れ全体量	H30年度	20,378MWh	34,494トン	38,628トン	R1年度	20,466MWh	34,504トン	39,128トン	R2年度	20,700MWh	34,384トン	38,744トン	R3年度	20,315MWh	34,002トン	38,620トン
	ごみ発電量	焼却ごみ量	ごみの受入れ全体量																			
H30年度	20,378MWh	34,494トン	38,628トン																			
R1年度	20,466MWh	34,504トン	39,128トン																			
R2年度	20,700MWh	34,384トン	38,744トン																			
R3年度	20,315MWh	34,002トン	38,620トン																			
12	ゴミ袋の有料化によるごみ減量の予測、ゴミ袋有料化による他市の事例等を要望する。	ごみ袋の有料化によるごみ排出量の削減効果は、5.5%と見込んでいます。県内他市は、すべて1枚目から有料で購入する制度となっております。																				
13	草津市のごみ排出量の経年推移、ごみの種別データを要望する。	別紙「種類別・年度別ごみ処理量 集計表」のとおりです。																				
14	「他の手法に比べて効率のよい事業手法である」とあるが、他の手法とは何か、比較対象を把握した上で、評価を行いたい。	センターの整備に際し、主要な施設である焼却炉について、外部の専門家も含めた委員会で検討し、安全面、コスト面などから効率的な「ストーカ燃焼方式」を選定しました。 比較した処理方式: ストーカ式、ストーカ式+灰溶融方式、流動床式ガス化溶融方式、シャフト式ガス化溶融方式																				
15	「所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある」について、資料があれば要望する。	前述の質問にもあったように、R3年度には38,620トンのごみが排出されていません。資源循環推進課では引き続き、ごみの減量と資源化の促進に努めます。																				